

林業とくしま

第10回徳島県緑の少年隊
交流集会から
とき:平成14年8月22日
ところ:徳島県立神山森林公園



緑の少年隊徳島連盟会長あいさつ

(式典の様子)

活動報告



(御所緑の少年隊)



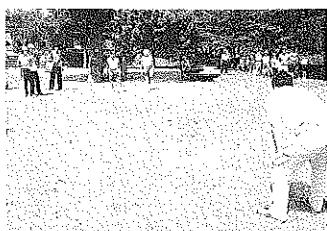
(昭和緑の少年隊)



(木屋平緑の少年隊)

(森のウォークラリーから)

ペットボトルボーリング



ストライク!!

樹木博士・花博士



ただ今、木や花の
名前をメモ中



速く。速く。



「小さな芽にも注ぐ愛
緑の地球はぼくらの宝」

(平成14年徳島県緑化標語優秀作品)

鴨島養護学校高等部1年

行天 哲朗君の作品

No. 262

2002.10

やまびこ

現在、国や県で森林組合の広域合併が強く指導されています。私たちの地域でも平成十二年度後半から合併の協議が急速に進みました。合併こそ組合及び林業家の窮状を解決して、運営の安定化への唯一の途だと思い、関係官庁と町村のご指導のもと組合関係者の同意を得て実現できました。

新しい組合の中心として働く人は職員です。七名中五名が新規採用の若い人で、今後の組合運営を心配しましたが、意外に真面目で仕事覚えがよく職員間の相互理解と融和に富んでいて、その上県関係者の指導もあり順調に運営がされています。

現在の組合が取り組む仕事が国や町村等からの補助事業であり、これなどを中心として事業運営を行い、堅実な組合に築きあげる心積もりです。

現在、国や県で森林組合の広域合併が強く指導されています。私たちの地域でも平成十二年度後半から合併の協議が急速に進みました。合併こそ組合及び林業家の窮状を解決して、運営の安定化への唯一の途だと思い、関係官庁と町村のご指導のもと組合関係者の同意を得て実現できました。

新しい組合の中心として働く人は職員です。七名中五名が新規採用の若い人で、今後の組合運営を心配しましたが、意外に真面目で仕事覚えがよく職員間の相互理解と融和に富んでいて、その上県関係者の指導もあり順調に運営がされています。

山に行く人は、私が八十一歳で、年頭。長男五十三歳。孫二十九歳。曾孫六歳で、現地に行つて説明は私の役です。

出掛ける折りの弁当は各嫁が担当。山で弁当を食う時、今日の弁当は俺のが一番うまい。僕のもおいしいよ。などなど自慢し思い出話和三十年頃から植林に取り組み、今や完全に植林が出来、見上げるような大木に成長しています。「夢よ、もう一度」と願う気持ちと反対に木材価格は昔を立てて下がり続けています。毎日山へ行つて一生懸命働き続けても木が売れず、全然金にならないのでは、本業としては成り立たず、林業の後継者は当然の事ながら僅かと思われます。

それでも自分が汗を流して作り上げた林地を見る度に、せめて自分の山を見に来てくれるだけの後継者でも欲しいと思います。三年前には家族で協議して一年に二回春秋のお彼岸の頃山に行く事になります。そのために十年前から山話を現地でしています。



もくじ (林業とくしま 261号)

やまびこ(森林組合の広域合併と後継者) 2	林研とみんなの情報交流コーナー 8
鉄人コーナー(木工品製作に才能發揮) 10	技術情報(猛獸の糞なんて効き目あるの?) 10
(四国で唯一人の漆かき職人) 3	阿波だぬき(ウォーキングとの出会い) 12
林政の窓(造林間材事業の仕組みについて) 4	東西南北 13
特集(森林組合広域合併の状況について) 6	広告 15

鉄人コーナー

木工品製作に才能發揮

木屋平村

東川原孝志 氏

木屋平村の自己所有山林を經營するかたわら、山仕事同様、奥さんとの裕見子さんと共に、木工品の製作を行っています。

木工品の製作は、十年くらい前に雨降り対策として登山道の道標を作つたのが、始まりだそうです。机・椅子はもちろん、間伐推進用の看板、林道などの案内用の標示板、また、最近では、特産センターたぬき家横での木屋平村案内板等、幅広く作成しています。

その結果、東川原さん政策の看板が木屋平村のあちらこちらで見られるようになりました。

材料は、自分の山から出してきた木材を使い、製材から、デザインまでを、自分でやつており、木の特性を十分に生かした物を作成しています。

また、看板に塗布するUVカット塗料についても、どんなものが一番よいか熱心に研究しています。



そんな東川原さんの唯一の悩みは、現在作業を車庫で行っていること。作業する場所(木工所)が欲しいとのことです。

将来の夢としては、あくまでも林業経営がメインであつて自分の山に、簡易作業道を張り巡らせ、その日のうちに、伐採した木を持つて帰れるようにしたいとのことです。

また、将来的にはログハウスづくりにも挑戦したいとのこと、どんなことでも、意欲的に挑戦する東川原さん、今後のますますのご活躍を期待します。

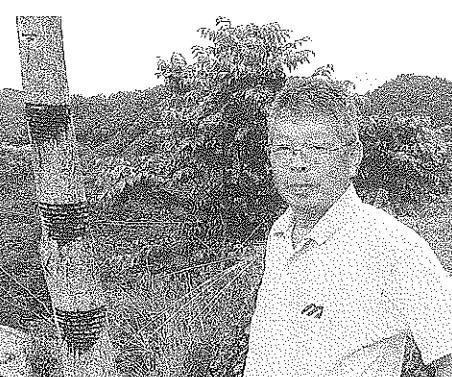
四国で唯一人の漆かき職人

山城町

東吉平氏

山城町引地の吉野川渓谷を見下ろす高台が東さんのお宅です。約十三年前、祖父の代まで続いた漆かきを復活させるため、地元の職人に弟子入りし、五年ほどかけて技術を獲得したそうです。郵便局を退職した現在は、漆の生産に本格的に取り組み、高松を中心におこなうとあります。

山城の漆は透明度が高く、柔らかい色合いに仕上がる素塗り用として珍重されているそうです。



そうですね。採取後は、伐採し萌芽更新させます。現在は、0.5ヘクタールの畠の他、町内を数ヵ所回って採取しています。東さんのために、切らずに残してくれる人も増えたそうです。

漆の木は一本毎に性質が異なるので、注意しないと十分な量がどれだけかかるかもしれません。また漆は、弱い木で自分を守るためにかぶれるのだそうです。

漆や山をこよなく愛する東さんに、これからも、上質な漆の生産や技術の伝承にも頑張って頂きたいと思います。



「森林・林業基本法」の制定を受けて策定された「森林・林業基本計画」に基づき、森林を重視すべき機能に応じて「水土保全林」、「森林と人との共生林」、「資源の循環利用林」に三区分するようになりました。

そのため、従来の造林間伐事業の制度も変更されましたので、その概要についてお知らせいたします。

一、事業体系の概要

次のように造林関係事業（造林・間伐等の事業）と林道関係事業が、事業の目的に応じて、一体化されることとなりました。（表一）

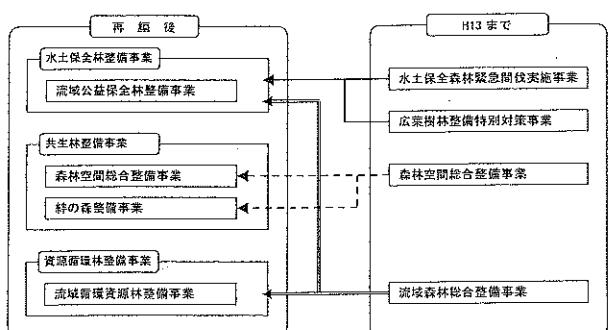
二、再編された事業の内容

一で一体化された事業と今まで実施してきた造林・間伐関係の主要な事業の対応関係は次の図の通りです。

(表1)

事業名	森林区分	概要
水土保全林整備事業	水土保全林	土壤保持能力や保水能力に優れた森林を目指して、緊急間伐の実施、高齢級の森林や針葉混交林への誘導等の森林施業とこれに必要な林道整備を推進する。
共生林整備事業	森と人との共生林	自然環境の保全と創出を目指して、市町村を中心に、身近な森林とのふれあいの場や憩いと学びの場となる森林空間の整備とアクセス等に必要な林道整備を推進する。
資源循環林整備事業	資源の循環利用林	安定的な木材資源の活用と供給を目指して、林道・作業道の一体的な整備を進めるとともに、成長がよく、木材に適した樹木の植栽や適切な保育や間伐等の森林整備を推進する。

(図1)



三、実施できる作業種

植裁、下刈、枝打ち、除間伐、複層林の造成、天然林の整備等の各種森林整備に必要な作業は、それぞれの森林区分の機能を向上させ、目指すべき森林の姿に誘導できるものであれば、事業支援の採択が可能ですが、ただし、事業の実施に当たっては、県で実施基準を定めています。詳しくは

(二) 事業主体

事業により異なりますが、流域公共保全林整備事業と流域循環資源林整備事業の場合は、地域共同体、森林組合、森林施業計画の認定を受けた者、市町村と森林整備に関する協定を締結した森林所有者等となります。

は最寄りの農林事務所林務課森づくり係にお問い合わせください。

四、補助事業（造林・間伐事業）を実施するための要件等

(二) 森林整備事業計画の作成

市町村長は計画的な森林整備を力年の事業計画を作成します。補助を受けるためには、一部の事業を除き、この計画に位置付けられることが必要です。

（二）事業主体

事業により異なりますが、流域公共保全林整備事業と流域循環資源林整備事業の場合は、地域共同体、森林組合、森林施業計画の認定を受けた者、市町村と森林整備に関する協定を締結した森林所有者等となります。

（三）補助対象面積

施行地の面積が〇・一ha以上が

の事業では、一事業主体による施行地の合計面積が四ha以上必要となります。

林政の窓

図 2

(計算の一例)	
①標準事業費	100,000 円/ha
②実施面積	1.00ha
③査定係数	170/100 (保安林の場合)
④査定事業費	=①×②×③
	=100,000 円/ha × 1.00ha × 170/100 = 170,000 円
⑤補助金	=④×4/10 (補助率) = 68,000 円

なお、事業主体や補助対象となる事業規模等については、事業や事業内容、実施主体等により異なりますので詳しいことは最寄りの農林事務所林務課森づくり係にお問合せ願います。

標準事業費に対する査定係数との関係

(二) 査定係数

森林空間総合整備事業及び絆の森整備事業の場合は、森林整備に係る事業費等の7/10(補助率)となります。

業費は各種事業に対して県が定めた標準事業費×実施面積×査定係数で算出します。

- 補助金はこの査定事業費等×
- 4/10(補助率)×
- 補助金となります。(図2)

(森林空間総合整備事業及び絆の森整備事業の場合)

- (一) 基本的な考え方
(流域公益保全林整備事業と流域循環資源林整備事業の場合)
- 補助率については、県が査定する事業費(以下「査定事業費」という)の4/10となります。
 - 査定する事

して実質補助率は二七%～七二%となります。助成を受けるにあたり開始までは保安林指定や森林施業計画の認定を受けられます。

なお、流域公益保全林整備事業及び流域循環資源林整備事業の区分については次のとおりです。
(表二)
森林整備課 間伐推進チーム

表2

査定係数の区分		査定係数		備考
査定区分	査定係数の適用の要件	流域公益保全林整備事業	流域循環資源林整備事業	
①緊急間伐協定	緊急間伐団地において、市町村との間伐実施協定を結んで実施する特定間伐とこれと一体的に行われる間伐実施(平成16年度まで適用)	180/100	180/100	
②施業実施協定	一団の民有林で市町村長の認可を受けて、当該対象森林について行う間伐又は保育、その他森林施業の共同化の施業実施協定を締結し、その協定に基づいて行う森林施業	180/100	180/100	
③保安林等	保安林、自然公園特別地域、鳥獣特別保護地区等法令により、間伐率等の森林施業の制限を受ける森林で行う森林施業	170/100	170/100	
④森林施業計画	森林施業計画に基づいて実施する森林施業 (ここで示す森林施業計画は、平成14年度以降樹立する森林施業計画を対象としています。) (経過措置として、それまでに樹立した団地共同森林施業計画、個人の森林所有者が樹立した属人森林施業計画は右の中・下段の査定係数が適用されます。有効期間は、樹立している森林施業計画の実行期間の終期までです。また、前回計画していなかった場所や時期に森林施業を実施計画する場合は、新たに森林施業計画を樹立することが必要です。)	170/100 170/100 140/100	170/100 170/100 140/100	上段： 新規樹立 中段： 現行の団地共同施業計画 下段： 現行の属人森林施業計画
⑤協定締結造林	市町村長との間で5年間の施業の計画的実施に関する協定を締結し、その協定に基づいて行う森林施業	120/100	120/100	
⑥普通造林	上記のいずれにも該当しないもの	90/100	90/100	

森林組合広域合併の状況について

木材価格の低迷、森林資源の充実、森林の持つ諸機能への期待など森林・林業を取り巻く状況の変化に対応するために、昭和三十九年に制定された林業基本法が昨年七月に森林・林業基本法として三七年ぶりに改正・施行されました。

これをうけて基本計画には、森林の有する多面的機能の發揮、林産物の供給及び利用の確保を施策の基本方針として掲げています。

このような状況のなかで、昭和三八年に合併の促進を図るために制定された森林組合合併助成法も平成一三年度末をもって期限切れとなつたことは、合併に対する一つの区切と考えられます。

また、国による新たな林政における森林組合のあり方に関する検討会の報告では、森林組合は、協同組合的性格と公益的性格を有して

いることから、地域の森林管理水平の低下が懸念されるなかで、これまでの森林所有者からの森林施設の受託等にとどまらず、地域の森林を管理する役割を担うなど公益的性格を高める検討が必要とされております。

このような役割を担うためには、今後も広域合併組合等の基盤強化と併せて、森林組合の経営規模の拡大、組織運営の合理化の推進等の強化の方策として合併が有効な手段であることから、引き続き合併を推進していく必要があります。

これまでの合併推進の状況は、木材価格や国産材のシェアが年々低下し、一方では森林・林業に対する要請が多様化している状況下の昭和六二年度に板野郡森林組合が設立されたのを契機に合併が進められてきました。

その後、なお一層の合併に対する認識と推進を図るために県では、平成九年度に平成二十年度末までに県下に五組合を配置する徳島県森林組合広域合併基本構想を策定しました。

この構想のもとに、徳島県森林組合広域合併基本計画や地域の実情に沿つてさらに合併が進められ、本年十月一日には徳島地区五組合による徳島中央森林組合が誕生し、県下の森林組合は十六組合となり、そのうち合併組合は九組合となっています。

現在、三好郡五組合において本年八月に合併推進協議会が設置され、早期の合併実現に向けて協議を進めているところであります。

森林組合は、造林、保育等の森林整備事業の約九割を担つており、現在最も重要な施策として進められています間伐の実施や森林の諸機能を高める施設についても、その担い手として益々重要視されてくると考えられます。

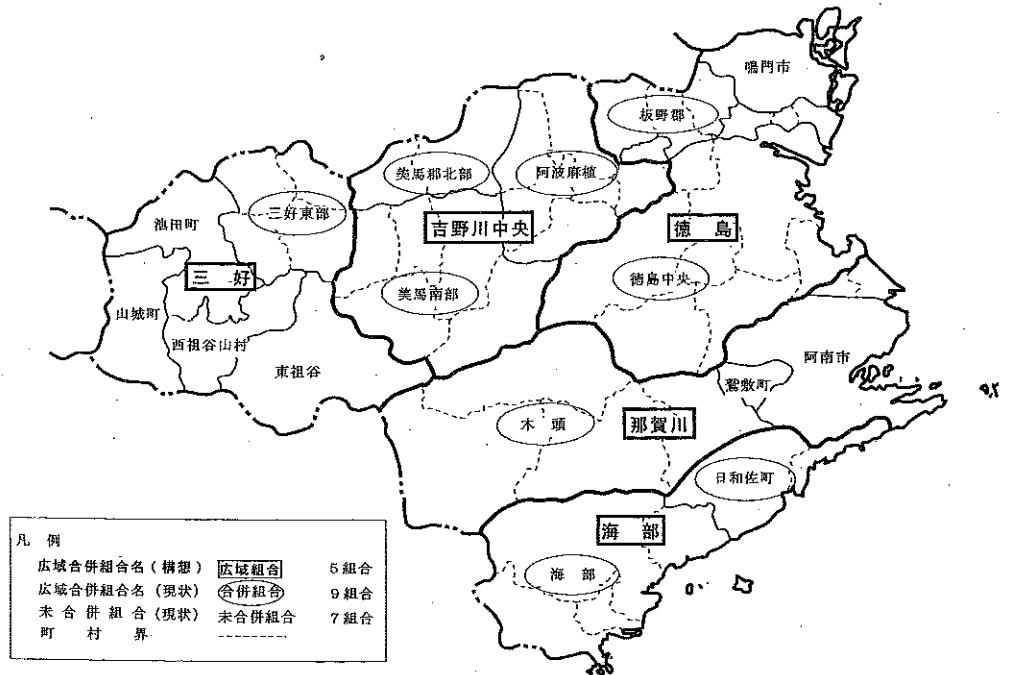
林業振興課団体指導担当

事業量の減少が考えられるなかで、森林所有者による協同組織として、また、地域全体の森林管理者としての役割を求められていると同時にその役割を担える組織づくりが求められています。



徳島中央森林組合合併予備契約調印式

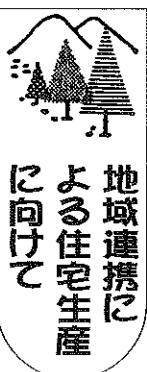
徳島県森林組合広域合併基本構想



倉 併 の 状 況

- 1 町村合併
昭和30年度より1町村1組合を推し進め、昭和45年度までの16年間に87森林組合が41森
 - 2 広域合併の推進状況
 - ア 昭和40年度:海部川森林組合(川上、川東、浅川、海部町)
 - イ 昭和62年度:板野郡森林組合(土成町御所、板野町、上板町)
 - ウ 平成元年度:阿波麻植森林組合(美郷村、山川町、市場町、阿波町)
 - エ 平成4年度:木頭森林組合(木頭村、木沢村、上那賀町、相生町)
 - オ 平成9年度:美馬郡北部森林組合(脇町、美馬町)
 - カ 平成9年度:三好東部森林組合(三野町、三好町、三加茂町、井川町)
 - キ 平成11年度:海部森林組合(牟岐町、海部町、海南町、宍喰町)
 - ク 平成13年度:美馬南部森林組合(穴吹町、木屋平村、半田町、貞光町、一宇村)
 - ケ 平成13年度:日和佐町森林組合(由岐町、日和佐町)
 - コ 平成14年度:徳島中央森林組合(徳島市、勝浦町、上勝町、佐那河内村、神山町)

林研とみんなの情報交流コーナー



地域連携による住宅生産に向けて

かみやま林業振興会では、七月十二日 T S ウッドハウス協同組合専務理事長和田善行氏をお招きして、講演会を開催しました。

全国的な不況に呼応して、大変厳しい林業情勢が続く今ですが、一部には、関係者の努力により、消費者との信頼関係をつくり安定的な国産材の供給と住宅生産を続けているグループもあります。T S はその代表格ともいえる組織です。

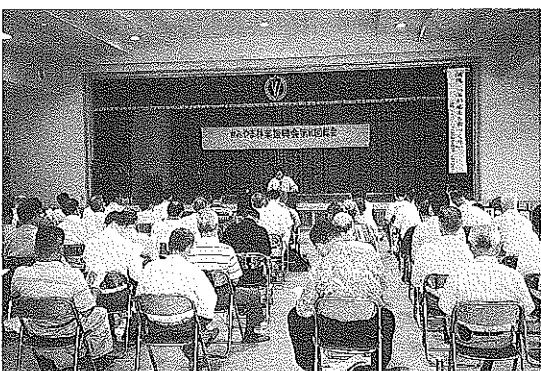
今回の講演会は、神山型の産直住宅生産体制の創設を目指して、開催されたもので、林研会員だけでなく、地元の製材関係者、建築関係者も多数参加し、地域材の利用促進について情報を交換しました。

今、神山町では、地域が一体となつた林業活性化の取り組みが始まっています。

かみやま林業振興会では、十四名で午前中に間伐と木登り枝打ち体験をし、午後に森林の機能と徳島県の森林の状況を説明しました。最後には「プランター」や本立てを製作する木工コースと、かずら細工コースに別れて取り組んでもらいました。

体験した先生方からは好評で、「生徒にも山のすばらしさ、森林・林業の大切さを伝えていきたい」という感想が寄せられました。

これを機会に学校教育において森林・林業教育が進むことを期待したいと思います。



三好郡小学校の先生 が林業体験

三好郡内の小学校の先生は夏休み期間中に様々な各部会活動を行っていますが、その中の生活総合部会では、森林体験研修を実施するために、実習を行いました。

先生から要請を受けた我々が、山城町栗山県有林で、技術指導に当



樹恩ネットワーク恒例行事「森の楽校」が八月九日からの三日間井川町で開催され、地元の西井川林業クラブが大活躍しました。

特に今年初の試みである初日の二日目の林業体験では下刈り作業の途中で雨になつたので、急遽ラブ員の自宅へ受け入れ、家族ぐるみで親交を深めました。

西井川林研は、この他にも徳大三井ゼミの受け入れなど、様々な交流活動に幅広く取り組んでおり、交流の輪は全国に広がっています。

西井川林研は、この他にも徳大三井ゼミの受け入れなど、様々な交流活動に幅広く取り組んでおり、交流の輪は全国に広がっています。

池田農林事務所 兼松 功

西井川林研が 大学生と交流

林研とみんなの情報交流コーナー

美郷村の林業研究グループ「The 山師」では、オリジナルロゴマークをプリントした半袖Tシャツとブルゾン(長袖)のイベント活動用エプロンを作成しました。今回はそのお披露目として、八月二日(金)に鴨島小学校で「親子ふれあい木工教室」を開催しました。夏休みの登校日を利用して、一年生六十四名とその父

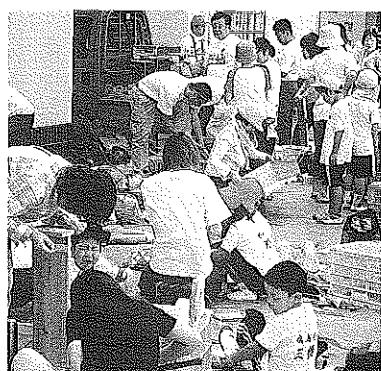
親子ふれあい
木工教室



母・兄弟・祖父母等、総勢約一五〇名が杉間伐材の板(二m)で、トンカチのこぎりを片手に、本立てやプランナー等の製作にチャレンジしました。日頃、のこぎりなど持つたことないお客様方が多かったのか、「この線のところを切って」「ハート型に穴をあけて」「釘が横に出ちゃった…」等、六名の会員は大忙でした。当初は時間内(十一時まで)に仕上がるのかと心配しましたが、ほぼ全員の方が完成にこぎ着けることができました。休憩する暇もなく、とても忙しい毎日でしたが、子供達が目を輝かせて、用意した木



川島農林事務所 村上 英司
工端材に釘を打つたり、ボンドで貼つたりして、思い思いの作品を得意げに作っていた姿が印象的でした。



山の仲間(グル)
「てんとう虫」発足

てんとう虫は、平成十四年二月一日に「女性の視点を活かした特徴ある地域づくり」を目的に、女性五名(代表 祖父江利江さん 脇町東大谷)の手により脇町の美村地域で産



須恵 丈二
ませんね。
脇町農林事務所

飛躍的に広がって頼もしい限りです。今後は「初めてにしては上出来でない」「次回は何で染める」「これだけ売れるかな」など会話は前向きに定期的に行っていく予定です。

近い将来、作品が皆さん的手に届くかもしだれ

声をあげました。

その記念すべき第一回目の活動は、ピラ(皮)、クララを使った草木染めを行いました。会員のほとんどが本格的な草木染めは初めてで、戦慄苦闘してましたが、講師の指導のもと、煮出し→染色→洗い→媒染→洗い→乾燥の工程をへて五時間後に作品(ハンカチなど)は完成しました。

完成した作品を手に、いろいろな意見、反省点が聞かれましたが、最後には「初めてにしては上出来でない」「次回は何で染める」「これだけ売れるかな」など会話は前向きに

調査を行い、季節に応じた草木染めを定期的に行っていく予定です。

今後てんとう虫は地域の植物の調査を行い、季節に応じた草木染めを定期的に行っていく予定です。

須恵 丈二

ませんね。
脇町農林事務所

飛躍的に広がって頼もしい限りです。今後は「初めてにしては上出来でない」「次回は何で染める」「これだけ売れるかな」など会話は前向きに定期的に行っていく予定です。

近い将来、作品が皆さん的手に届くかもしだれ

猛獸の糞なんて 効き目あるの?

シカによる植林被害に
こんな突拍子もない方
法で取り組んでいます！

徳島県立農林水産総合技術
センター・森林林業研究所

専門研究員

川村英人

一はじめに

シカによる林業への被害は県南部を中心にしており、特に植林した苗木に関しては植えた苗全部が被害に遭うという悲惨な状況も見受けられます。

今まで様々な方法がこの被害の軽減を目的に試行錯誤されてきましたが、なかなか決定打がありません。一般的な対処法ですが、各種チューブ、忌避剤、柵による防護が一般的な施工法ですが、手間が掛かり樹形異常や蒸れの心配があります。また、忌避剤の施工も伸長部の被害や効果持続期間に問題があり、今一般的な方法とされる柵の設置には多大な経費と労力を要します。

そして、それでは防護効果が絶対と言えるものはありません。なぜなら、生き物を相手としている以上、相手も生きていくためには食べなければならず、お腹が空けばあらゆる方法でその解決に努力するからです。

によると思われます。

三 新たな発想で

しかし、依然として被害は進行しているもので、対策の手は考えていかなければいけませんが、森林林業研究所としても昨年度からある林業者の方からの提案で、ちょっと突拍子もない方法でシカの林業被害防止対策を研究しています。

それは猛獸の糞を使ってシカに対して忌避効果を持たすことが出来ないかという研究です。その方からの話は、テレビでオオカミのマーキング（尿かけ）に對してイヌが恐怖でよだれを垂れ流すといった内容の番組を見て、シカの天敵である猛獸の糞尿が忌避剤に使えないか研究所で試してもらえないかという内容でした。

面白い発想だと思い、さつそく動物園に行き状況を確認することにしました。園長さんの協力を得て、飼っているシカの工サ箱に猛獸糞（ライオン、トラ）を置いて様子を見てみました。最初は工サ箱に近づいてきたシカたちも糞にあと二十cm程立つところで、臭いを嗅いだ途端に飛び退き、その後は五、六m以内には近づきませんでした。そして、私たちが見ている

四 試行錯誤？

現地事前試験でも猛獸糞に漬けたひもで囲った工サ（家畜飼料用ヘキキュー）は一ヶ月ほど侵入を受けず、何もしない工サは置く度に翌日にはきれいになくなっていました。

シカについてのこうした研究が成された実績は全国にも殆ど無く、動物の学習効果からこうした忌避効果はたしかにあります。しかし、シカの糞尿には、糞の傍で食べている鈍感なシカ（二頭程・全体の一割）もいましたが、それでも糞の周りの工サには口を付けませんでした。



動物園でのシカの举动観察

技術情報

すぐに無くなるというのが一般的な見解だそうです。しかし、事前試験の結果から何か効果がありそうな感触を得て、昨年秋から植栽試験に取りかかりました。

試験には、「苗木に直に糞汁を掛けたもの(浸漬区)」「糞汁に漬けたナワで囲ったもの(ナワ区)」「そして「無処理区」の三種類の試験区を設け、それぞれに試験区にスギとヒノキの苗木、各十五本計三十本を用い、各試験区二回復の合計六プロットで観察することになりました。

その結果、「無処理区」は一週間後に被害を受け始め、一ヶ月後には全滅となりました。「ナワ区」は約一ヶ月は被害を受けず、その後は次第に被害を受け、それも二ヶ月後には全滅してしまいました。しかしながら「浸漬区」は六ヶ月間にも渡り被害を受けず、その後被害を受けましたが、十ヶ月過ぎた現在でもスギ苗に関して言えば、明らかに他の試験区と差がありました。

五 おわりに

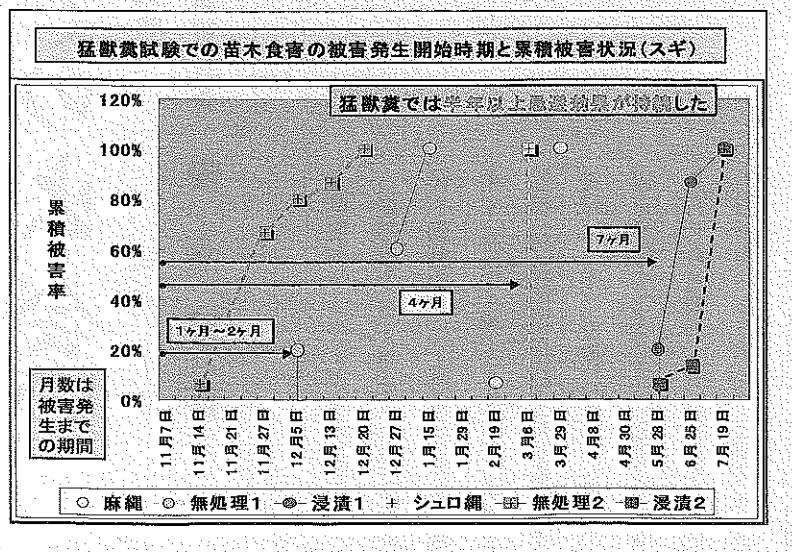
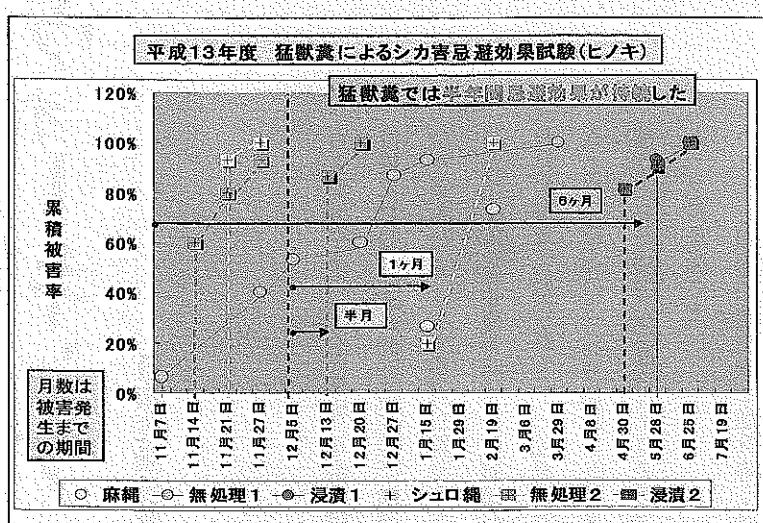
しかしながら、動物である以上学習効果で翌年には被害を受ける可能性があるので、実証試験を数回行

う必要があると思われます。そのため、今年度も試験を七月下旬に再開したところですが、一ヶ月後の現在、無処理区については一プロットは一週間に全滅し、他のプロットもスギは二週間目で全滅しましたが、他の二区

たところですが、一ヶ月後の現在、無処理区については一プロットは一週間に全滅し、他のプロットもスギは二週間目で全滅しましたが、他の二区

は結論が出るものと思われます。
この日記効果試験が学習効果という点で失敗に終わらないよう祈りたい気持ちですが、遅くとも数ヶ月後に状態が続いている。

害は県南部を中心で激害であり、早急な解決策を図るために、研究所としても今後とも努力していくつもりです。



阿波だぬき



ウォーキングとの出会い

日和佐農林事務所

林務課長 安永健吾

ウォーキングを始めて十年目にな

る。その出会いは平成五年に遡る。神戸市主催の六甲全山縦走大会が開催されており参加しないかとの誘いがあつた。山歩きは林道の測量等で常日頃接しているので今更という気がしたが、山歩きは達者であろうという煽おとこてとその場の成り行きから参加する羽目になつた。

百人が神戸市以外の参加枠、年齢制限は特になし。縦走時間は朝五時に出発しタイムのチェック地点が数カ所あり、ゴールには午後十時までに到達しなければならないとのこと。完走率は八十五%位とのこと。参加に当たり事前に十分な練習が必要であるとのアドバイスを受けた。

しかし練習の鴨島駅→藤井寺→焼山寺往復コース約三十km等に参加してみると足にまめはできるし、ウォーキングは全身運動であり日頃使つていらない筋肉を酷使するため足腰が痛くなり不安になつた。これではだめだと思い足腰を鍛えなくてはと思い自

主的なウォーキングを始めた、

最初は1日1万歩と計画したが天候や勤務体系によりなかなか達成出来ず、今は1週七万歩、または月三十五万歩(勿論年三百六十五万歩、月平均実績は一万二千歩)を目標に自宅の周辺を歩いている。そうしたら他の所にも行きたりなり、その結果県内の四国の道はあらかた歩くことができたし、六甲全山縦走は過去七回参加、四国十八カ所歩き遍路は丸四年かけて結願することができた。

夢はエレベストを展望することができるヒマラヤトレッキングである。

参加することは決めたが縦走の経験もないのに不安になり、内容を聞くと神戸市の須磨浦公園を起点に六甲山系五十六kmを縦走し、終点は宝塚駅前広場、開催日は十一月に二回、参加人数はそれぞれ約二千人、内五

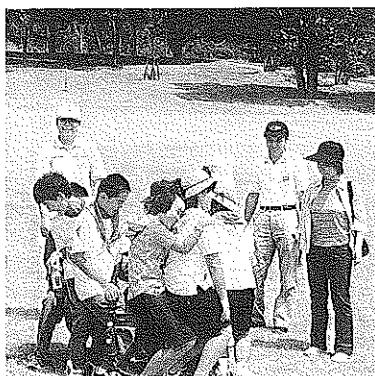


徳島
緑の少年隊
交流集

八月二十二日、神山森林公園において、第十回徳島県緑の少年隊交流集会が開催されました。

県下各地から二十隊七十九名が集まり交流を深めました。

下で、①樹木博士・花博士、②丸太切りタイムトライアル、③ペットボトルボーリングを組み込んだ森のウォーキングに挑戦しました。このような集会を通して、緑の少年隊の活動や交流が活発になることを期待します。



林業振興課
市原光

徳島 間伐材利用の一例

従来型の木製横断溝だと間伐材等の数量は多くなりますが、番線や鍵などで固定しなければならず、施工時間がかなり掛かっていました。今回施行した木製横断溝は加工設置が容易でありコスト及び工期の縮減が図れると思われます。

德島農林事務所 小笠原光生



あつた為、今回木製横断溝を施行する」としました。

「中尾山林間学校」の開催

間計七回、美馬郡木屋平村の中尾山（なこやま）高原で木屋平村主催の林間学校が開催されました。

「森の窓口」の先生方に講師をお願いし、自然体験、木工クラフトづくり、アウトドアクッキング等が行われました。各回の出席者数は平均約三十人で、計約二百人が参加しました。

自然体験では森の中でゲームをしたり、ツリーハウスに登ったり、ブランコで遊んだりしました。木工クラフトづくりでは小径木を輪切りにしてペンダントやキーホルダーを作りました。アウトドアクッキングでは、竹を使つて炭焼きのバウムクーヘンを作りました。特にアウトドアクッキングは、飛び入りの参加もあり、盛況でした。参加した子供たちにとって充実した夏休みの一になつたとthought。

四

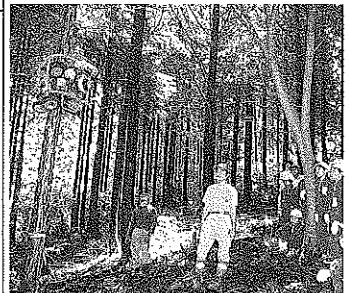
脇町農林事務所 坂田 和則

午後は、森の案内人の指導の下の栽培や宮川内谷川ビオトープ公園でボランティアに取り組んでいる「御所緑の少年隊」の活動報告がありました。

当施行地は路面勾配が比較的急で、路面の浸食が起りやすい状況に

そして最終日に生徒により、手すりとハウス中心の床の下にロープでブランコを取付け、最後に学校で作成してきた看板を設置しツリーハウスが完成しました。

このツリーハウスは、後日行われた林間学校に参加した子供達の楽しい遊び場として活用されました。



脇町

間伐材でツリーハウス

木屋平村中尾山で穴吹高校木屋

平分校生が七月十四日から三日間かけてツリーハウスを作成しました。

初日は設計図により材料集めと基礎となる足組の丸太にのみを使ってホゾ穴を開ける作業を行いました。

二日目から組立て作業に入りました。まず最初に前日用意した丸太を林内に人力(五十メーターグライン)で運びましたが、これが重労働でした。あて木及び丸太の固定等の高所での作業は青年林業士でもある㈱ウッドピアの職員が担当し、生徒はツリーハウスの床となる丸太を滑車とロープを使い地上四メーターに引上げる作業を行いました。

から要望がきています。これは、総合学習初年度の教育現場からの我々普及職員に対する要請の高まりかと思われます。

内容につきましても、教育のプロではありませんが、未来の担い手の子供達に、「森林」「林業」「自然」といったキーワードから、総合学習の目的である「生き抜く力」を身につけてもらえるよう、日々から普及現場において日々研鑽し、資質向上に努めなければならぬといふ使命感をひしひしと感じる今日この頃です。

川島農林事務所 井関 廣幸
内容につきましても、教育のプロではありませんが、未来の担い手の子供達に、「森林」「林業」「自然」といったキーワードから、総合学習の目的である「生き抜く力」を身につけてもらえるよう、日々から普及現場において日々研鑽し、資質向上に努めなければならぬといふ使命感をひしひしと感じる今日この頃です。

川島

総合学習としての 林業教室

脇町農林
事務所
細川 光広

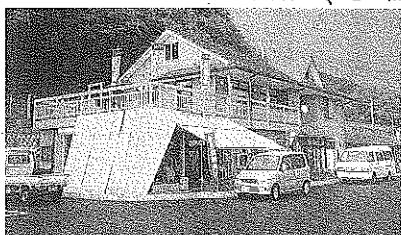


池田

三野町に木造公共 施設完成

川島指導区におきましては、毎年各町村教育委員会と連携し、森林林業教室の要望の取りまとめをしてまいりましたが、今年度はすでに九校

池田 農林事務所
蟻塚秀彦



要拡大につながることを、関係者は期待しています。

一階には地元農産物の直売と、情報端末で観光情報を検索できる「」ツキからは吉野川を一望できます。

様々な木造の公共施設ができるば、より多くの人に木の良さを知つてもらうことができるるので、これが契機となる

建築物です。特に三層パネルを効果的に使うことで、先駆的木造建築物として特徴的なものに仕上がっています。

建坪は約二五〇平方メートルあります。が、このうち約一八〇平方メートルは、県単林振の地域材利用促進対策事業を使って建てられた木造二階建ての建築物です。

八月八日に三好郡三野町の県道鳴門池田線沿いにオープnedした道の駅三野は、県産材をふんだんに使つて建てられた木造二階建ての建